

## 「海洋の酸性化についての声明 (IAP Statement on Ocean Acidification)」

### に関連しての会長談話

日本学術会議が加入している国際学術団体のひとつであるインターアカデミーパネル (IAP: InterAcademy Panel on International Issues) は、6月1日、「海洋の酸性化についての声明 (IAP Statement on Ocean Acidification) \*1」を発表しました。

声明では、過去 200 年間、人間活動に起因して排出された CO<sub>2</sub> の約 4 分の 1 が海洋に吸収され、それが海洋の酸性化をもたらしていると指摘し、そのことに警告を発しています。

海洋の酸性化問題は、珊瑚礁や海洋生物の生物多様性に深刻な影響を及ぼすばかりでなく、食糧生産や家畜等、人々の生活に大きく関わってきます。そのため、声明においては、世界の指導者に向けて、本問題の重要性を認識し、CO<sub>2</sub> 排出の抑制に努めるよう呼びかけています。

また、本年 12 月にコペンハーゲンにて開催予定となっている「気候変動枠組条約第 15 回締約国会議\*2 (COP\*3 15)」の議題の一つとしてこの問題も取り上げるよう呼びかけています。

現在 100 を数える IAP 加盟アカデミーの内、70 のアカデミーが本共同声明に賛同の意を表明しております。

日本学術会議としては、2004 年以来、執行委員メンバーとして IAP の活動に関与しており、今回の IAP 声明についても発案当初の運営委員会 (steering committee) のメンバーとして 2 名が参画し、積極的に声明作成の過程に貢献して参りました。

世界の科学アカデミーからの警告としての本声明を受けて、海洋の酸性化に関する問題にも政策当局及び広く一般社会の目が向けられ、その影響が少しでも緩和されることを願わずにはられません。

また、今後も、地球規模の課題について、世界の科学アカデミーが充分その機能を発揮し、共同して適切な提言を行ってゆくことで、その状況を改善することに貢献できるよう、努力を続けて参りたいと思います。

平成 21 年 6 月 15 日

日本学術会議会長

金 澤 一 郎

\* 1 : IAP 声明「海洋の酸性化についての声明 (IAP Statement on Ocean Acidification)」

[http://www.interacademies.net/Object.File/Master/9/075/Statement\\_RS1579\\_IAP\\_05.09final2.pdf](http://www.interacademies.net/Object.File/Master/9/075/Statement_RS1579_IAP_05.09final2.pdf)

\* 2 : <http://www.ambtokyo.um.dk/ja/menu/COP15/WhatIsCOP15/>

\* 3 : Conference of Parties (締約国会議)